

SEED (シード)

Vol.020
2024.01月

令和5年度「駒大生社会連携プロジェクト」の活動期間も残すところ僅かとなりました。今回は4つのプロジェクトからの実り豊かな報告をご紹介します。

【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト活動報告 放射線教材コンテストにおいて 最優秀賞・公益財団法人日本科学技術振興財団理事長賞を受賞！

日本科学技術振興財団が主催した2023年度の放射線教育発表会で行われた放射線教材コンテストにおいて、本プロジェクト参加メンバーチームの作品「見て動かしてわかる！放射線からの身の守り方」が、応募された94作品中で最優秀賞と公益財団法人日本科学技術振興財団理事長賞を受賞しました。



このコンテストは、小学生から高校生まで利用できる優秀な放射線教材を決定することを目的としています。作品のテーマは放射線防護の三原則（距離・防護・遮蔽）で、BB弾の量を調整することで照射時間を、投入する場所を変えることで距離を、そして穴の開き方が異なる板を差し替えることで遮蔽を表現しています。装置に溜まったBB弾を用いて被ばく線量とその分布を示し、さまざまな条件の中から最も被ばく線量が少なくなる条件を探ることがこの作品の目的です。



また、ぐるぐるプロジェクトドラマ企画部門へのエントリーも無事に完了し、その結果が待ち遠しい状況です。

【世田谷区部門】文学部 李 妍焱先生プロジェクト活動報告

すべてのインタビュー調査を終え、
ふかさわの台所で「市民的コモンズをめぐるダイアログ」を開催しました。

それぞれのグループでインタビューを終え、これまでにご協力をお願いした調査対象者の方々にご足労頂き、ふかさわの台所で「市民的コモンズをめぐるダイアログ」を行いました

第1回は11月2日で安藤勝信さんと吉備友里恵さん。第2回は11月24日で川崎修さんと三島由樹さん。第3回は12月6日で、市来広一郎さんと武井浩三さんによる対談となりました。

現地にお越しいただいた方はもちろん、オンラインでも幅広い分野の多くの方にご参加頂き、無事に成功させることができました。



また、全ての回で古屋芳美さんにお料理を振る舞っていただき、ダイアログ後には参加者同士で食事と懇談の場を設けました。実際に社会でご活躍なさっている方々の貴重なお話を聞くことができ、学生は非常に有意義な時間を過ごすことができました。

年末には、同ふかさわの台所で今後に向けた話し合いを行いました。ダイアログの振り返りと、ゼミ論に関する準備を行いました。

2年生のゼミ生も参加し、今後の取り組みに関する話し合いと学年間交流の場を持つことができました。

年が明け、今後はゼミ論の執筆が待っています。1年間の調査の集大成であるゼミ論の完成を目指し、ゼミ生一同、より一層気を引き締めて取り組んでいきます。



【世田谷区部門】経済学部 松本 典子先生プロジェクト活動報告

まちのキーパーソンから学ぶ

「せたがやのコミュニティ活性」に関する基礎研究：講演＆交流会開催

まちのキーパーソンから学ぶ「せたがやのコミュニティ活性」に関する基礎研究の第3回目として、10月19日に、尾山台のタタハウスにて、一般社団法人うめらく代表理事の山田摩利子さんをゲストにお呼びして、講演＆交流会を行いました。

今回の講演テーマは「都市部における関係案内所の役割」で、20名ほどの参加者へお話していただきました。



うめらくは、「企業」「学校」「研究機関」「地域」「個人」など、多種多様な人たちと共創しながら、Well-beingで笑顔あふれる社会をめざしたまちづくり活動を行っています。その活動の中で、観光だけではなく人とのご縁や関係を案内し、大阪・中津のまちの魅力に関する情報発信を行い、魅力を創造する拠点として「関係案内所なかつもり」をオープンしました。その拠点を主軸に、UPCYCLE中津荘やTHANKS HOPなど、日々たくさんのプロジェクトが生まれているそうです。そんな山田さんのめざすところは、まちづくりや地域や社会の課題をじぶんごとにし、小さなアクションでもよいから日々積み重ねた結果を創り出せる人を増やすことだそうです。



講演をきいて、大企業や有識者、国や行政が主導してつくられるまちではなく、近隣に住む人たちがそこに集まる地域内外の市民の力を軸に、企業や行政を巻き込みながらつくるまちづくりの魅力を知ることができました。

【世田谷区部門】経済学部 長山 宗広先生プロジェクト活動報告

P B L 型授業のモデル確立 – 世田谷発の起業家教育 – 本格的な問題解決型学習、実践体験型PBL授業に取り組みました。

経済学部の2023年度前期開講科目「アントレプレナーシップ養成講座」では、本格的な問題解決型学習（PBL：Project Based Learning）、実践体験型PBL授業に取り組みました。履修者は、経済学部2年～4年の120名。

PBLの連携相手とスケジュールは、①(株)デロイトトーマツベンチャーサポート（4/13～5/25の6回）、②(株)アザイ・コミュニケーションズ（6/1～6/15の3回）、③(株)Be（6/22～6/29の2回）、④(株)シンシアージュ（7/6～7/20の3回）です。

本号では、(株)Be…（代表取締役 高橋美樹）と連携して取り組んだ産学連携プロジェクト「次世代まつげパーマのプロモーション」について紹介します。このプロジェクトは、前期の「アントレプレナーシップ養成講座」の授業後、長山ゼミ（2年生）において後期（10月～2024年1月）に取り組んだ課外活動という位置づけです。

連携先の(株)Be…は、コロナ禍に、高価格帯の次世代まつげパーマのラグジュアリー・ブランド（ルナクレスト）を市場導入した美容系スタートアップ企業です。次世代まつげパーマとは、オーガニックな薬剤と特殊な機材を用いて、まつ毛を傷めずにカールさせ、比較的長期（2～3カ月程）に持続させる新規サービスです。(株)Be…では、今般、セカンドブランドとして、新たにコスパ重視の低価格帯の次世代まつげパーマ「ソルクレスト@原宿店」を立ち上げました。そこで、長山ゼミでは、アントレプレナーシップ論の学習の一環として、新ブランド「ソルクレスト@原宿店」のマーケティング戦略について企画提案そして実践していくこととしました。低価格帯ということで、学生が標的市場となります。まずは、マーケットリサーチとして駒大生にアンケート調査を実施し、コスパを再定義したうえで、プライシングのための情報提供を行いました。さらに、プロモーションに活用するための素材として、2つの動画を制作しました。

1 本目の動画は、次世代まつげパーマの施術の手順や注意点、施術のビフォーアフターなどを伝える店内プロモーション動画です。長山ゼミ生が実際に施術を体験し、その撮影した動画を編集しました。店内の待合室で施術前の待ち時間にモニターで流すことで、新規顧客の不安解消やカウンセリング等の時間短縮に資することが狙いです。2 本目の動画は、経営者目線でのインタビュー動画です。この動画では、「どのような人が経営しているのか」「なぜここまで安く提供が可能なのか」などのインタビューを撮影した動画です。こちらは、顧客向けのプロモーション動画ではなく、アーティスト（施術者）のリクルート向けに活用することになりました。

国の創業支援政策では、国民の約7割にも及ぶ起業無関心者（起業家との個人的な接点のない起業に無関心な者）の層に対し、「創業機運醸成事業」を積極的に展開しています。本学の現代応用経済学科ラボラトリでは、世田谷区においてフォーマルに創業機運醸成事業を実施しています。今回の「アントレプレナーシップ養成講座」と連動した駒大生社会連携プロジェクトにおいても、創業機運醸成事業と位置付けられます。「店外プロモーション」に関しては時間切れで実践に至りませんでした。学生（起業無関心者）がスタートアップ企業の起業家と直接的に深く関わり、新サービスを共同で開発した経験（起業学習）はなかなか出来るものではありません。



動画撮影の様子①（学生の施術体験）



動画撮影の様子②（経営者へのインタビュー）

駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、
社会連携センターのホームページでご案内しております。 → [社会連携センター「お知らせ」](#)